

登録日	2025/4/8
腫瘍名	胃がん

登録番号	Gas039
申請医師	消化器外科

投与スケジュール

mFOLFOX6+Zolbetuximab				14日毎 × PDまで	
				1コース	2コース
				1 8	15 ... (day)
① 生理食塩水 (プライミング用)	20 mL	点滴	5分	↓	↓
② デキサート パロノセトロン アロカリス ボラミン 生理食塩水	9.9 mg 0.75 mg 235 mg 5 mg 50 mL	点滴	30分	↓	↓
③ 生理食塩水 (前投薬用フラッシュ)	50 mL	点滴	5分	↓	↓
④ ビロイ 注射用水100mL 生理食塩水	800 mg/m ² 1 本 500 mL	点滴	2時間以上	↓	↓
別紙の速度表を参照して段階的に速度をあげて投与 2回目以降は400mg/m ² で投与					
⑤ 生理食塩水 (ビロイ用フラッシュ)	50 mL	点滴	5分	↓	↓
⑥ レボホリナート 5%ブドウ糖	200 mg/m ² 250 mL	点滴	120分	↓	↓
⑦ オキサリプラチン 5%ブドウ糖	85 mg/m ² 250 mL	⑥と同時に 点滴	120分	↓	↓
⑧ フルオロウラシル 生理食塩水	400 mg/m ² 50 mL	⑥、⑦終了後に 全開		↓	↓
⑨ フルオロウラシル 生理食塩水	2400 mg/m ² 50 mL	⑧終了後に 46時間かけて		↓	↓
⑩ 生食注シリンジ ポート内洗浄 患者持ち帰り用	10 mL	静注		↓	↓

注意事項

【適応】CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な胃がん(原則、1次治療)
【投与延期、中止基準】適正使用ガイド参照
【調製上及び使用上の注意】
・催吐高リスク Day2～4までデカドロン8mg/dayを投与。 ビロイ投与前日からオランザピン1回5mgを開始し、Day4まで投与する。糖尿病がある際、他の制吐剤に変更する。 (外来時は、Day1から投与でも可)
・ビロイは、別紙の”調製量と投与速度の一覧表”を参照して、投与量に応じた調製量や投与速度を実施する。
・ビロイ投与速度 800mg/m ² : 投与開始から30～60分まで100mg/m ² /時、その後、200～400mg/m ² /時に変更可能。 400mg/m ² : 投与開始から30～60分まで50mg/m ² /時、その後、100～200mg/m ² /時に変更可能。
・副作用対策として、投与速度の減速や中断または中止などの処置を行う。
・ビロイは、体表面積と投与量に応じて、溶解液の処方を変更可能とする。

参考文献

1) Lancet, 401, 1655–1668 (2023).
2) 添付文書 (ビロイ2024年6月改訂版、オキサリプラチン2023年8月改訂版、レボホリナート2024年4月改訂版、フルオロウラシル2024年7月改訂版)